10　家庭

学校番号	1009

令和２年度　家庭科

教科	家庭	科目	子どもの発達と保育	単位数	２単位	年次	３年前期
使用教科書	子どもの発達と保育（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇子どもや保育について学び、これからの子育てや子育て支援について考えてみましょう。講義だけでなく実習も含めて積極的に取り組みましょう。

・子どもの発達の特性や発達過程、保育に関する知識や技術を習得するために教科書、プリント、視覚教材を使って学習する。

・保育園での体験授業で乳幼児と実際に触れ合い、乳幼児の発達と保育に関する理解を深める。

2　学習の到達目標

子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を身につけ、子どもの発達や子育て支援に関する態度と能力を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	子どもの発達や保育に関心を持ち、関わろうとする姿勢がみられる。	子どもの発達や保育にかかわる知識を身につけ、子どもの発達、行動、生活などについての理解を深めるとともに、これらに関する自分の考えを表現できる。	実習を通して子どもと触れ合うことで、子どもの発達や保育の知識を理解し、子どもの発達過程に応じた技術を身につけている。	子どもの発達や保育に関する知識を習得し、子どもの行動や生活に関する基本的な事項が理解できている。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述 体験授業の参加 自己評価　等	学習状況の観察 ワークシートの記述 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述 体験授業の参加 実習の作品 レポート、定期考査、実技テストの結果自己評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述 レポート、発表、定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
前期	子どもの発達の特性	・生涯発達における乳幼児時期の重要性 ・発達と環境 ・発達観・児童観とは	○	○ ○	○ ○	○ ○	a:人間の発達における乳幼児期がどのような位置づけであるか自分の考えを持っている。 b:人の一生をライフサイクルとしてとらえることができる。 c:外国と日本の児童観を理解し、社会情勢が影響していることが説明できる。 d:乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを理解する。	授業観察 ワークシート 定期考査
	子どもの発達過程	・身体発育と運動機能の発達 ・乳幼児期のからだの発育 ・乳幼児期の発達の特徴 ・人間関係の発達 ・心の発達	○	○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:乳幼児のめざましい発育について積極的に取り組もうとしている。 b: 発育の個人差や愛着について認識を深めている。 c:乳幼児の生理的特徴が具体的に説明できる。 d:子どもの発達や特徴について理解できる。	授業観察 ワークシート 体験学習のレポート 発表 定期考査
	子どもの保育	・保育の意義と目標 ・保育の方法 ・保育の環境	○	○ ○	○ ○	○ ○ ○	a:体験授業や実習に積極的に取り組むことができる。 b: 年齢に応じた保育者のかかわりを考えることができる。 c:子どもたちの生活や行動を観察し、適切なかかわり方を身につける。 d:家庭保育と集団保育の特徴について理解する。	授業観察 ワークシート レポート 作品 発表 体験学習のレポート 定期考査 自己評価
	子どもの生活	・子どもの健康と生活 ・子どもの食事 ・子どもの衣服 ・子どもの遊びと生活 ・子どもの健康管理	○	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:保育者としての責任を自覚しながら学習している。 b:乳幼児の適切な生活について思考することができる。 c:乳幼児の健康や安全のため保護者が努めなければならないことを考えることができる。 d:乳幼児の生活習慣について理解する。	授業観察 ワークシート レポート 体験学習の参加 体験学習のレポート 定期考査
	子どもの福祉と子育て支援	・子どもの福祉 ・子育て支援	○	○ ○	○	○	a:児童福祉の必要性について関心を持っている。 b:子育てにおいて何が大切であるかを判断できる。 c:児童福祉について法律や制度の整備面から考察することができる。 d:保育の現状と課題について理解している。	授業観察 ワークシート 自己評価 定期考査

※　表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
　　c：技能　　d：知識・理解

※　＊は、ワークショップ、実習・実験など実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習活動を示している。

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。